

(別記様式第3号)

普及活動検討会実施報告書

栗原農業改良普及センター
実施月日：令和6年9月4日
実施場所：栗原合同庁舎

1 検討内容

No.	検 討 項 目
1	令和6年度普及指導計画について（報告事項）
2	課題1「金成有壁地区の活性化ビジョンの実現」について
3	課題2「加工用たまねぎの直播栽培技術の確立による収量確保」、課題3「土地利用型経営体のお豆多収穫技術の体系構築による単収の向上」の取組状況について（報告事項）

2 検討委員の構成

(単位：人)

区 分	人数	区 分	人数
先進的な農業者	1	生 活 者	1
若手・女性農業者	2	学識経験者	1
市 町 村	1	マスコミ	
農業関係団体	1	民間企業	

3 委員の評価と普及センターとしての対応方向

検討項目	評価値 平均値	評価結果（コメント、評価表の要約）	普及センターとしての対応方向
No.1 について		・栗原の特色を生かした計画で良い。 ・重点活動4項目は現在の農業の課題そのものであり、これをクリアしていくことで栗原の農業を守り発展させていける。今年度の普及指導方針については高評価。 ・重点活動4項目について市農政やJAとも連携の下、次世代の担い手育成、経営組織の体制づくり、生産改善・拡大の担い手支援等が着実に推進されることを期待する。 ・前年度の計画に気候変動に対応した栽培技術等導入支援、麦やそばに対する支援が追加され、現状に即した取組となっていることを評価したい。 ・栗原市における農家数の減少、農業産出額の減少が年々加速している。その中でも法人化による地域農業維持、米に頼らない露地園芸の振興、単収の向上に	・引き続き、農業者や関係機関・団体等と連携し、社会情勢の変化に適応しながら、地域課題に焦点を当てた普及指導計画の策定、活動実施に努めます。

		よる販売額増加と栗原市が直面している課題解決の糸口として普及指導計画がなされている。 ・一般活動を継続しながらプロジェクト活動を実施するのは大変だと思うが、一般活動の中で見えてきた課題をプロジェクト化しており、とても良いと思う。 ・農家の視点としては、現状の栗原の農業の課題や問題点が把握されていて、解決に向かって取り組んでいることが素晴らしいと感じた。一方で、この活動に対する農家以外の方々の認知度が低いのではないかと感じた。農家以外の異業種の方々も巻き込んでいけば、別の方向からの打開案が出てくるかもしれない。	・普及活動ブログや広報等を活用し、広く活動内容を周知してまいります。また、必要に応じて異業種との連携も視野に入れ、普及活動に取り組んでまいります。
No. 2 について	4. 1	・金成有壁地区農村地域活性化ビジョンの推進母体となる有壁創生会の地元企業と連携した取組に対する支援を行っていることを評価したい。また当該地区の農地整備事業の採択要件として、農業法人の設立が条件となっているので、引き続き支援をお願いしたい。 ・地域の皆様のチームワーク、歴史ある魅力的な酒蔵との連携、地域農業を次世代へ繋ぐ信念に基づく「活性化ビジョン」の実現を期待する。ほ場整備事業の早期スタートを心から願うとともに、法人化は必ずしも急ぎ過ぎず、ビジョンに合った「経営のかたち」が十分検討されることを期待する。 ・活性化ビジョン実現に向けて、早い時期から取り組まれているようだが、農業法人の設立や農地整備事業等に時間がかかっている様子。色々な課題が今後も生じると思うが、将来の有壁地区の農業の発展に期待すべき、支援をお願いする。 ・地域にある産業が連携しながら、農地整備、担い手の育成等の課題を解決し、さらには地域性を生かし、都市との交流なども期待させる素晴らしいプロジェクトである。一方、法人化をクリアしても高齢化は進み、新たな課題も出てくるため、継続的な支援の必要性を感じる。 ・地域の資源（酒蔵）を活用し酒米栽培を柱とした地域の活性化に着目した点は評価できる。その後、農業法人の設立となると、法人としての経営（酒米以外の作物生産）や雇用問題（年間を通しての作業があるか）等、これから発生する課	・農地整備を契機とした地域活性化ビジョンの実現に向け、普及対象と地元の酒造会社との連携強化を図るとともに、普及活動に取り組む中で新たに生じた課題に柔軟に対応しながら、地域の実情に応じた法人設立への支援を行ってまいります。

		題も視野に入れて進めて頂きたい。 ・地域共生と収益性の両立は難しいと思われるが、取組としては良いと思われる。 ・栗原の基幹産業である水稻を更に魅力のあるものにしていく可能性のひとつとしての、とても素晴らしい取組だと感じた。農家だけでなく、酒造会社と連携しての取組が高評価です。SNS 等を活用した PR に農家視点でももっと発信して欲しい。	・活動の取組は、SNS 等を活用しながら PR してまいります。
No.3 について		【課題 2 「加工用たまねぎの直播栽培技術の確立による収量確保」】 ・期待の大きい省力生産体制の構築へ向けて、生産法人や試験研究、機械メーカー一丸となった課題解決の取組に期待している。 ・栽培面積拡大、収量増加に向け、栗原地域での播種体系・防除体系の確立を進めて頂きたい。 ・RTK システムを活用した畝立て同時播種を実施し、作業効率を図ったことや、年間の作業工程を示し適期作業に努めたことを評価したい。市においても転作の地域重点振興作物に指定しており、作付の拡大に向け、引き続き支援をお願いしたい。 ・取り組み内容、支援内容は評価できる。収量を増やす栽培技術の向上や、RTK を活用した省力化、効率化等に向けた継続的な支援が必要。 【課題 3 「土地利用型経営体大豆多収穫技術の体系構築による単収の向上」】 ・大豆の生産性向上に向けて、昨年度まで取り組まれた技術対策（蔓化防止や難防除雑草対策）と組織運営（経営全体の作業計画の中での適期作業調整）の両面からの支援成果が生かされて、着実な経営成果となるよう期待する。 ・これまで経験と勘に頼ってきた作業を「大豆栽培支援マップ」、「水稻・大豆作業競合回避チェックシート」により可視化したことは、栽培技術の向上や新たに取り組む農業者の技術習得につながり、素晴らしい。管内大豆生産者に普及して頂きたい。また、新品種の「すずみのり」の導入により、収量の向上が図られることを期待したい。	・関係機関と連携し、直播栽培の基本的技術の習得を支援した上で、RTK システムの導入による省力化を図り、適期作業の励行により収量を向上させ、作付面積の拡大を支援してまいります。 ・昨年度までのプロジェクト課題の成果を踏まえつつ、収量向上につながる技術対策を支援していくとともに、「大豆栽培チェックリスト」、「大豆栽培支援マップ」や「水稻・大豆作業競合回避チェックシート」の精度を高め、大豆生産者への普及を図ってまいります。

		【全般】 ・天候に左右され作業が集中する時期の難しさもあり、技術の確立には時間がかかるものと思われる。 ・どちらの課題も、私たちの経営に直結する取り組みで、とても参考になった。個人の農家でやっていると、どうしても勘や経験で作業しがちで、そこに普及指導員が入ることが、良い潤滑油になっているように感じた。今後も様々な取り組みをしていただいて、我々農家のアドバイザーとしてよろしくお願いしたい。	・土地利用型作物は天候に左右される面もありますが、適時に技術支援し、天候による影響を最小限にするよう努めてまいります。 ・勘や経験だけでなく、客観的な指標に基づいた農業技術の実践に向けて支援してまいります。
その他		・地区内のほ場を見ると、農業を辞める農家が増え、その管理を引き受ける個人や法人の面積が増々拡大し、作業が逼迫しているのではないかと思う。委託を受けても作付しきれないほ場があらこちらにみられる。解決策はないものか。 ・栗原農業を次世代へ繋ぐため、二世帯経営の継承発展や、雇用就農希望者と法人経営のマッチングや人材育成等、経営継承へ向けた相談対応や支援が重要と思う。ぜひ市農政やJ Aと協力のもと推進することを期待する。 ・普及センターの活動の全体を今まで知る機会があまり無く、改めて様々な活動をされていることを知ることができた。プロジェクト課題も今後の経営に役立つものや、栗原を自慢できるような取り組みがなされていて、改めて共有できてよかった。	・農業者の高齢化や耕作放棄地の増加等を含め、地域全体の課題を整理し、早急に取り組むべき課題について支援策を検討し、市をはじめ各関係機関と連携を図りながら、地域の課題解決に向け重点的に支援してまいります。

※：検討項目数に応じて欄を追加し記載する。